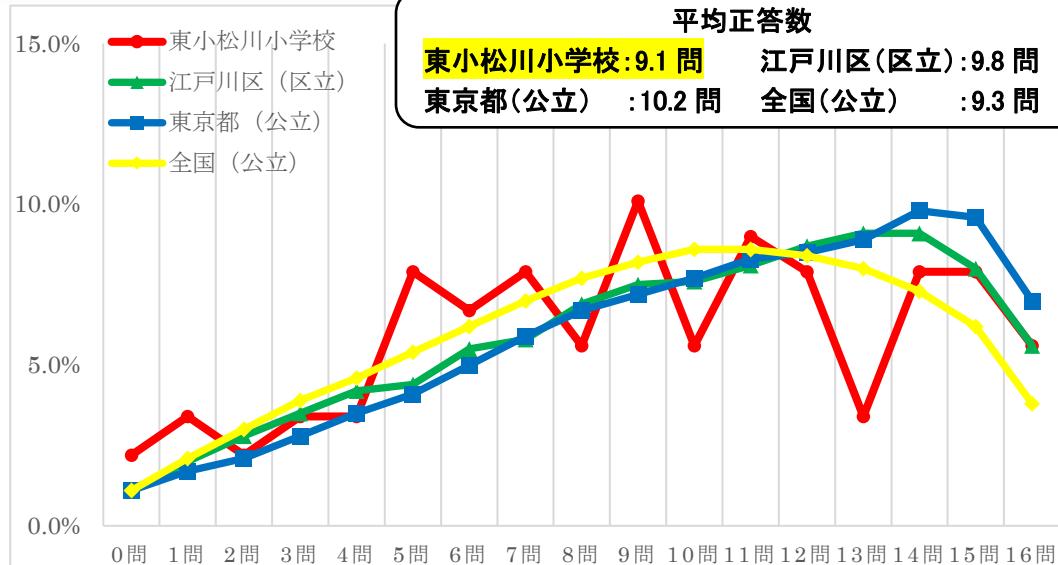


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】東小松川小学校

正答数分布



＜四分位における割合(都全体の四分位による)＞

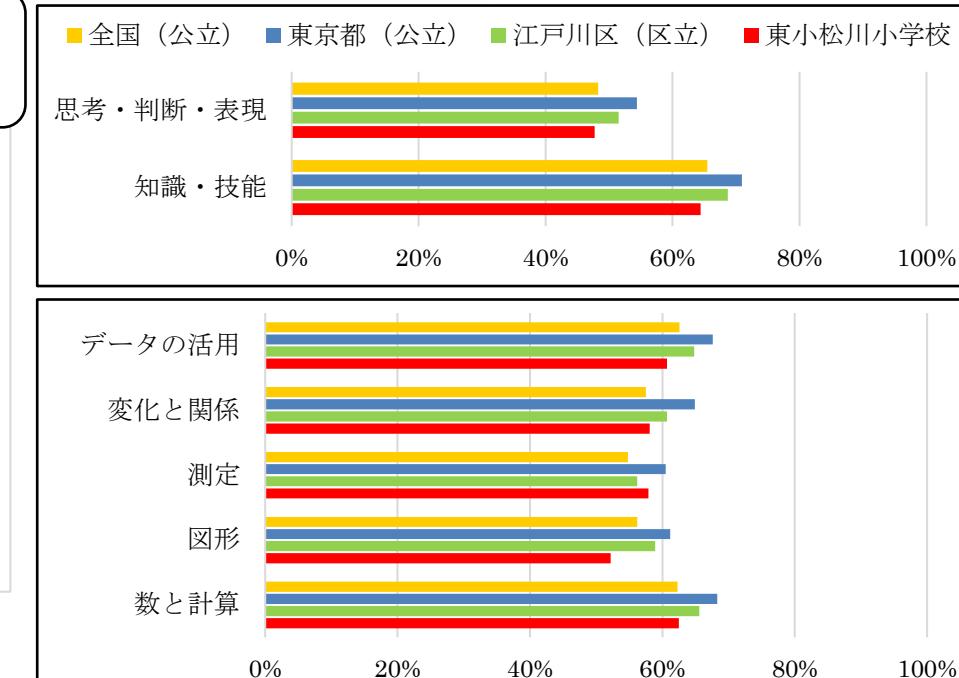
上位 ← → 下位

算 数	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
東小松川小学校	21.4	20.3	29.2	29.2
江戸川区(区立)	22.7	25.9	27.9	23.5
東京都(公立)	26.4	25.7	27.6	20.3
全国(公立)	17.3	25.0	31.4	26.3

【平均正答率の差】

東小松川小学校	57%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差	-7ポイント

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

昨年度と比べ四分位における割合ではA層は低下、D層は上昇している。このことから、学力に課題を抱えている児童に対する指導の充実が喫緊の課題だと言える。学習の導入段階で既習事項の定着状況を確認し、必要に応じて補習的な内容を扱うなどして、基礎的な内容の定着を図る。また、多様な出題様式に慣れることができるよう、朝学習の時間等を活用して復習の時間を多く設定する。課題が児童の負担にならないよう留意しつつ、児童の苦手意識の払拭を図っていく。

領域別に分析すると「図形」「測定」分野の正答率が低い。また、「知識・技能」に比べると「思考・判断・表現」の分野は16ポイント以上低く、都の平均と比べても7ポイント以上差がついている。思考力、判断力を育成するために、例えば計算問題であれば立式の根拠を問うような問題や複合図形の求積など、基礎的な内容を生かした応用問題を各単元の最後に取り入れるなどして、学習したことを活かした課題解決の経験を積むことができるよう授業改善を図る。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。